

3. あなたの病気と今行われている治療法について

あなたが現在治療を受けておられる「月状骨無腐性壊死」は、月状骨内部の骨組織が壊死（骨を作る細胞が死滅してしまい、骨組織がなくなっていく状態）となる病気です。壊死に陥った骨は、強度が低下するため、しばしば陥没し、結果として変形性手関節症とよばれる関節の病気になります。「月状骨無腐性壊死」の原因は様々であり、まだ完全には判っていませんが、月状骨への、または月状骨内の血管の閉塞による血行不全が主たる原因であるとされています。一旦壊死に陥った骨組織を元に状態にもどす（再生させる）ことは非常に困難とされています。

これまでの「月状骨無腐性壊死」に対する治療法と、その利点および問題点は以下の通りです。

- 1) 骨切り術：前腕の骨には二つの骨がありますがこれらのどちらかが長い場合には、この長い方の骨が月状骨を突き上げる事により壊死が起こる事があります。このような場合には長い方の骨を切り、短くする事で月状骨を突き上げる力が弱める目的で行われます。しかし月状骨壊死の原因が長さの違いによるものでない場合には効果はありません。
- 2) 血管柄付骨移植術：血管を付けたままの自分の骨を移植する手術です。血流を促す事で骨の再生には優れた方法です。しかし再生には長い時間がかかり、その間手の動きを固定しなければならず、手関節が拘縮により動きにくくなる場合があります。
- 3) シリコン人工物移植術：陥没変形が進行した場合に行われます。壊死となった月状骨取り除き人工物であるシリコンに置換する方法です。人工物に対する異物反応が強く現在あまり行われておりません
- 4) 腱球移植術：陥没変形が進行した場合に行われます。壊死となった月状骨を取り除き腱の一部を丸めて移植する手術です。陥没した月状骨の代わりに自分の